

議会だより

にしあいづ No.142

2018.7.31
(平成30年)

発行：福島県西会津町議会
編集：議会広報特別委員会



- 6月定例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～5
- 特集 ふるさと応援寄附金 拡充・・・・・・・・・・ 6～7
- ここが聞きたい！ 一般質問 11人が登壇・・・・・・・・ 8～19
- 町民と議会との懇談会（議会報告会）開催報告・・・・・・・・ 20～21
- この人にインタビュー・議会の動き・・・・・・・・・・ 22

最新鋭車両による消火訓練（町総合防災訓練）

補正予算3,649万円 総額936,529万円となる 一般会計3,198万円を増額

主な補正事業

コミュニティ助成事業（一般会計）

370万円

自治区などのコミュニティ活動に必要な備品や集会施設の整備などへの助成事業。

野沢第8町内 250万円
中野区自主防災会 120万円

ワークインレジデンス関連（一般会計）

1,403万円

この事業は、本町に住みながら起業・継業に挑戦する場を提供することにより、移住・定住に繋げることを目的としており、地域課題を解決するための事業（仕事）の開発と人材の育成、本町に滞在する場所の整備を行います。

調査委託料 400万円
設計監理委託料 208万円
お試し住宅改修工事 795万円



医療用機械器具費（国保特別会計）

442万円



更新される超音波（エコー）
画像診断装置

質 疑

一般会計補正

三留満議員

コミュニティ助成事業

370万円の内容は。

企画情報課長

野沢第8町内においては祭りの備品購入で太鼓購入、太鼓の張替えなど、また、中野区自主防災会（中野・大久保自治区）の防災備品の購入で発電機・チェンソー・消火器などである。

多賀剛議員

庁舎整備基金の現在残高並びに今後の推移は。

総務課長

今次補正現在で、約1200万円の残となっているが、平成29年度繰越分でも差額が発生することから、最終的に2000万円以上の残となる見込みである。

国民健康保険特別会計

多賀剛議員

新郷診療所から西会津診療所までの送迎バスに苦情や不都合はないか。

健康増進課長

4月26日から6回送迎バスを運行しているが現在まで利用者はなく、苦情などはない。

新郷診療所から比較的遠いところに住んでいる方はデマンドバスで直接西会津診療所に行っていることも要因と考えられる。

〇〇・イン・レジデンスとは

本町では国際芸術村での「アート・イン・レジデンス」などが挙げられます。一般に〇〇を行う人を滞在（広く移住・定住を含める場合もある）させると理解されている用語です。

町から提出された議案は、条例の一部改正や平成30年度補正予算、財産の取得、町道の廃止及び認定、人事案件など14件で、すべての議案を原案のとおり可決しました。一般質問では11人が登壇し、町の考えや対応を問いました。

県に制度移行後初となる税率算定

国民健康保険税条例の一部改正

課税限度額を見直し

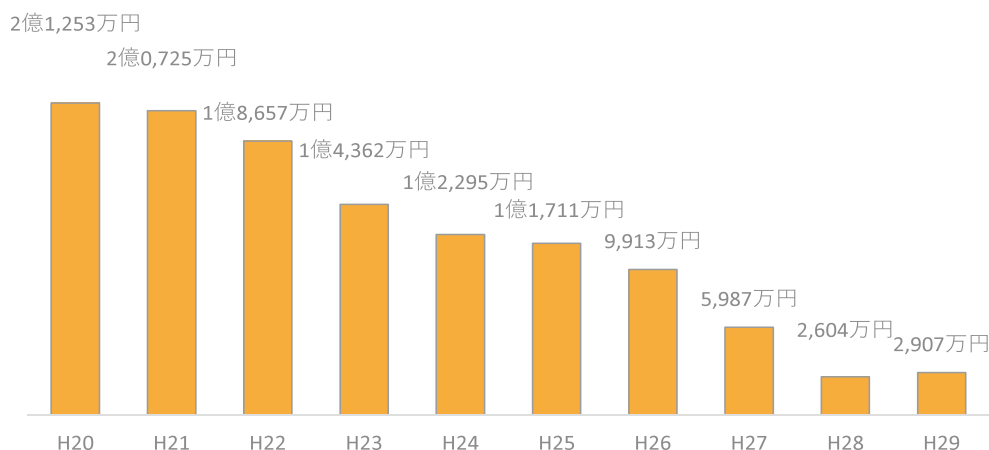
地方税法の一部改正、及び平成30年度分に係る税率改正により、基礎課税額の限度額が、現行の54万円から58万円へ4万円引き上げられ、高所得者により多くの負担を求める反面、中間所得者層に配慮したものとなりました。

税額は減額

償還金400万円を見込み、減税財源として繰越金の180万円を充当することにより、一人当たり281円・一世帯当たりでは5655円の減額となりました。

区分		所得割	均等割	平等割	1人あたり 平均税額	1世帯あたり 平均税額	課税 限度額
① 医療分	平成30年度	6.13%	21,400円	17,000円	52,879円	87,013円	58万円
	平成29年度	(6.09%)	(23,000円)	(16,800円)	(55,595円)	(94,195円)	(54万円)
② 支援分	平成30年度	2.60%	9,100円	7,000円	22,156円	35,734円	19万円
	平成29年度	(2.34%)	(8,600円)	(6,500円)	(21,100円)	(35,173円)	(19万円)
③ 介護分	平成30年度	2.34%	10,600円	5,600円	25,633円	30,347円	16万円
	平成29年度	(2.10%)	(10,000円)	(5,000円)	(24,254円)	(29,381円)	(16万円)
税額＝①＋②＋③ ※③の介護分は40歳から64歳まで							

国保支払準備基金年度末残高の推移



町役場の位置を変更する 条例の一部改正

町役場庁舎移転に伴い役場の地番が「3,261番地」から「3308番地」に変わります。



専決処分の承認

今年3月31日付けで地方税法の一部を改正する法律が公布され、4月1日付けで施行されたことに基つき、改正法令の公布日である3月31日付けで、町税条例の一部を改正する必要があったことから、専決処分により条例を改正したことを承認しました。

財産の取得

今年度中に導入する、定時定路線バスに使用する小型バス1台の取得。
(1155・6万円)

質疑

秦貞継議員

高齢者の利用に配慮したものの。

町民税務課長

電動オートステップや手すりなど高齢者等に配慮した仕様としている。

町道の廃止・認定・路線変更

道目川口線廃止



道目下松線・川口発電所線認定

町道を通行する人がいない、崩落した路肩の復旧が困難なことなどから、一旦廃止し2路線に分け認定。

山口村中線認定

山口自治区の集落内道路の改良工事に伴う認定。



念願の山口村中線いよいよ実現へ

尾登北線路線変更

道路改良工事に伴い起点が変更。

教育委員会委員を全会一致で任命

現職委員の辞職により

欠員となっている委員1名に長谷川正さんが任命されました。

※棄権1名（猪俣常三議員）・出席停止1名（渡部憲議員）

人権擁護委員候補者を全会一致で推薦

本年9月30日で任期満了になる現職の長谷川孝志さんと嶋田純子さんの2名を推薦しました。

全会一致とは

欠席・棄権者を除いた者の一致とされており、これが準用されます。簡単に整理すると「意思表示しない者」は除かれることとなります。「異議なし」採決や「起立総員」も全会一致として扱われます。

陳情

「大田ため池」の改修についてを採択

理由の要旨としては、

老朽化とアメリカザリガニの巣穴によって堤体法面の浸食が進んでいる。その対策についての陳情。



「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と

被災児童生徒の十分な就

学支援を求める陳情書を

採択

懲罰特別委員会報告



件名

議員渡部憲君に対する懲罰の件

調査報告

①議員渡部憲君に懲罰を科する

②懲罰の種類

1日間（平成30年6月14日）の出席停止

理由

議員渡部憲君は、本会議における一般質問時に通告外の質問をしようとし、議長長の許可を得ようとした。その内容も(株)西

会津振興公社の直接的な経営に関することであり、町の一般事務ではなかった。

西会津町議会会議規則第59条では、一般質問は通告制とし、町の一般事務について議長長の許可を得て質問することができると規定されているが、これを無視し許可を得ようとしたこと、及び議長が制止しようとしても発言を中止しないため、本会議を休議させた。（ここまでが懲罰動議の本文と同じ）

また、懲罰動議に対し、

弁明の機会を与えられたが、自分の言動を正当化し懲罰動議の理由を理解していない。

このことは、議会の権能を著しく失墜させ、議会の品位を損ない、円滑な議事運営を妨げたこと



懲罰委員会報告までの経緯

○平成30年6月12日

渡部憲議員の一般質問の一部要約

渡部議員「議長にお願いがあります、通告外の質問を許可してほしい。」

議長「通告外は駄目です。」

渡部議員「では町長、駄目ですか、振興公社の従業員のことで…」

議長「暫時休議します。」

○平成30年6月13日
懲罰動議 清野佐一議員
提出、賛同者3名。

○同日

渡部議員 一身上の弁明。

○同日

議長 懲罰特別委員会を
設置し調査を付託。

○同日

懲罰特別委員会開会。

荒海清隆委員長 報告。

○同日

議長 懲罰宣告。

委員会の動き

猪俣常三議員が、
一身上の都合により、
総務常任委員会副委
員長と議会運営委員
会委員を辞任したこ
とに伴い、次のとお
り選任されました。

◆総務常任委員会

副委員長

長谷川義雄

◆議会運営委員会

委員

長谷川義雄

議会ってどうなっているの？

「議会について教えて」との声がありましたので
質問形式で次の2点について、議員に当選後配布
される学陽書房発行の『議員必携』を参照しなが
ら説明します。

▼議会での「発言」

自由じゃないの？

議会は、『言論の府』
と言われるように議員活
動の基本は言論であって、
問題はすべて言論によつて
決定される建前です。

このため、議会におい
ては「発言自由の原則」
を保障しています。

しかし、その発言の自
由とは、どのような内容
もすべて許されるもので
はありません。

例えば、
①議場の秩序を乱す。
②会議の品位を落とす。
③個人のプライバシーに
関すること。
(地方自治法第129条
（132条）

④発言は簡明にし、議題

外にわたったり、その
範囲を超えてはならな
い。

（町議会会議規則第52条
第1項）

これらに関する発言は
許されません。

要するにこれらの制限
に抵触しない上で、節度
ある自由な発言が保障さ
れているといえます。

▼「質疑」と「質問」

同じじゃないの？

①「質疑」とは、本会議
の議題（議案審議）に対
して疑義をただす【不明
な点を提出者に聞く】こ
とです。



ルールとしては、前問
の④と、自己の意見（考
え・自論・演説等）を述
べてはならない。

（町議会会議規則第52条
第3項）

②「質問」とは、「一般
質問」がそれに当たりま
す。

ルールとしては、

①町の一般事務（行財政
全般）について議長の
許可の下で、質問する
ことができます。

②議長に文書で通告しな
ければならない。

（町議会会議規則第59条）

③「質問」は、あくまでも
質問であるので「要望」
「お願い」「お礼」の言葉
は厳に慎まなければなら
ないとされている。

西会津町・阿賀町議会交流会で活発に意見交換

6月29日（金）に、交流物産館「よりっせ」と阿賀町役場で開催され、両町の議会議員と事務局職員合わせて31人が出席し両町の事務事業の現状などについて、意見交換を行いました。

この交流会は、両町議会議員の情報交換を通じて、町の活性化や町民福祉の向上と併せて、議員としての資質向上を目的として、平成27年度から開催しており、4回目の開催となりました。

今回のテーマは、次のとおりです。

- ①西会津町の観光資源の活用について
- ②広域ゴミ処理によるゴミの分別と生ゴミ処理について
- ③阿賀町ふるさと納税の取り組みについて
- ④新渡～徳沢間国道459号整備促進について
- ⑤議会広報紙面づくりについて



阿賀町役場で担当者から説明を受ける両町議員

ふるさと応援寄附金 拡充 特集

インターネットポータルサイト 「ふるさとチョイス」掲載



平成20年度から始まったふるさと応援寄附金（ふるさと納税）は、自主財源の確保や地域活性化の手段として多くの自治体を取り組んでいます。当町もこれまで取り組んできましたが、十分な成果が得られているとはいえない状況にあります。このため、寄附金の大幅増額（3000万円）を目標に、本年度予算（2463・5万円）で、返礼品の見直し、ポータル

サイト「ふるさとチョイス」への掲載（6月11日）などが行われ、新しい取り組みが始まりました。返礼品は、米・キノコ・ミネラル野菜を基本に、地域の特産品をできるだけ多くそろえることを目指すとしています。しかし、成果を上げていくには課題も多く、議会としてこれまで一般質問や全員協議会で活発な議論が行われてきました。

6月議会全員協議会での質疑内容
問 集荷・配送・コールセンターについては、町振興公社に業務委託するとしているが、人員の配置と対応は十分できるのか。
町民税務課長 振興公社の既存の人員で対応できるとの返答があった。

問 米についてはJAを窓口として取りまとめることになった理由は、
町民税務課長 当初米栽培農家（げんき米）に個別にあたってたが、品質管理・パッケージデザイン等の課題があり、JAを窓口とするようになった。

問 食味計の活用については、JAと打ち合わせしているのか。食味値はどのように消費者に分かるように伝えるのか。
町民税務課長 JAとはこれまで何度か打ち合わせをしてきたが、食味計の導入後、活用についてはさらに話し合いを進め、積極的に取り組んでいく。食味値の表示についても、JAと十分打ち合わせをして取り組む。



(1)子育て応援事業



(2)地域活性化応援事業



(3)健康づくり応援事業



(4)自然環境保全応援事業



(5)活用方法を特に指定しない

寄附金の使い道は上記の5つの中から指定できます

れば、生産量の増加が見込めるため収入が上がる。げんき米以外の一般米についても今後取り組んでいく。

問 後発自治体としてどう差別化を図っていくのか。

町長

総務省から返礼品は、3割とするよう通達があった。どのようにして量・質ともにお得感を出せるのか検討中だが、ネット掲載が始まったばかりなので、寄附者の意

向を伺いながら見直しを図っていく。

問 町長自ら寄附の御礼電話はできないか。

町長

手紙や電話もあるが、毎年協力いただいた方には干支を贈ることなども検討したい。

問 委託業者を、頼まないといけないのか。

町長

ふるさと応援寄附金について専門的ノウハウを持っている、これまで実

績の上がっている業者に委託した。

問 西会津一うまい米コンテスト出品者の協力を得て、ネット掲載することはできないか。

町民税務課長

できるだけ多くの方の協力を得ながら、おいしい米を出していただけるように取り組む。

問 新しいパンフレットの作成は進んでいるのか。

町民税務課長

ネット掲載に合わせて、

新しいパンフレットに切り替える。

問 ミネラル野菜は返礼品に対して品不足にならないか。

町民税務課長

ミネラル野菜普及会に説明会を開催したが、協力いただける状態に至っていないので、個別に働きかけて量の確保を図っていきたい。

問 米の返礼品大口寄附への対応は。

町民税務課長

希望を伺いながら小分け対応する。

問 野菜を一度にたくさん送られても使い切れないのでは。

町民税務課長

量的に多くしないで、食べきれる量で対応する。

問 体験・観光の対応は。

町民税務課長

これまで取り上げていたが人気がなかったのが、今回は取り上げなかった。今後需要が見込まれる場合に再検討する。



返礼品は、町の特産品である米やキクラゲ、ミネラル野菜、加工品、民芸品、地酒など36件から選択できます。（7月13日現在）

ポータルサイトへの掲載は、広く、多くの方に協力いただくためには大変有効ですが、方針や手段を明確にして取り組まないで、自治体間の返礼品競争になってしまう可能性があります。

返礼品の差別化をどのように図り、地域の活性化につなげていくか試されているのではないのでしょうか。

当面、試行錯誤が続くことになると思われますが、地域の生産者、出荷者の協力なしには大きく伸びてはいきません。

行政と生産者間の意思疎通を十分図りながら、共に利益を分かちあえるよう発展することを期待します。

議会としても、今後とも継続して注視していきます。

町政を問う

ここが聞きたい 11名が登壇



質問順序

- ・三留 満議員
- ・秦 貞継議員
- ・薄 幸一議員
- ・猪俣常三議員
- ・小柴 敬議員
- ・渡部 憲議員
- ・伊藤一男議員
- ・長谷川義雄議員
- ・多賀 剛議員
- ・青木照夫議員
- ・清野佐一議員

一般質問は6月11日から13日までの3日間で行い、議員11名が登壇して町政の課題などを問いました。

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

1時間以内なら何度も質問可能

論点及び争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。

○渡部憲議員（9ページ）

- ①西会津高校存続の対応は
- ②在京西会津会の参加制限は
- ③ロータスインのリニューアル後の入場者は

○伊藤一男議員（10ページ）

- ①ベトナムとの今後の交流の見通しは
- ②在京西会津会との連携は
- ③地滑り地帯の点検は

○猪俣常三議員（11ページ）

- ①教育改革の内容は
- ②ICTを活用した鳥獣害対策を

○清野佐一議員（12ページ）

- ①福祉政策の充実を
- ②水稻作付面積と水田の維持管理は
- ③写真コンクールで交流人口の拡大を

○多賀剛議員（13ページ）

- ①教育長の所信を伺う
- ②早急な新教育大綱の策定を
- ③ベトナムとの交流の将来性は

○長谷川義雄議員（14ページ）

- ①介護人材確保の取り組みは
- ②ふるさと応援寄付金返礼品のブランド化を

○三留満議員（15ページ）

- ①若者定住住宅の取り組みは
- ②燃料チップ生産施設整備の対応は

○薄幸一議員（16ページ）

- ①旧新郷保育所施設の活用は
- ②自然災害への対応は

○秦貞継議員（17ページ）

- ①国保診療所の方向性は
- ②町が目指す町民バスの運行は

○小柴敬議員（18ページ）

- ①森林資源の利活用に向けた取り組みは
- ②定時定路線バスの早期運行を

○青木照夫議員（19ページ）

- ①活気あるまちづくりに向けた取り組みは

※掲載ページは抽選による。

※掲載記事は2項目まで。



議員
渡部 憲

ロータスイン

問 リニューアル後の評価は

答 好評をいただいている

問 リニューアルオープン後の入場者の増減や入場者の評価などは調査したか。

商工観光課長

リニューアルオープン後の入場者数は、4月は日帰り温泉の利用者が前年比33パーセントの増、5月は前年比12パーセントの増となっており、お客様から大変好評をいただいている。



今後も利用者の目線に立ったサービスを

問 露天風呂の周りや外壁など、温泉施設の今後の改修予定はあるか。

商工観光課長

温泉施設の屋根の補修

や外壁の修繕工事を予定しており、今後も町民福祉の向上と安全安心、快適に利用できる環境整備を進めていく。

問 西会津高校存続の対策は

答 魅力ある学校づくりへ支援

問 西会津高校の入学者が30年度は14名でその内、西中からは3名の入学者であった。町長は今後の基本的な対策をどう考えるか。

学校教育課長

西会津高校の存続については、県教育委員会や西高との調整、活性化対策協議会での協議を行い、同窓会・PTAなどと連携を図りながら魅力ある学校づくりへの支援を行っていく。

問 町の教育委員会は生徒の進路指導について西中に対してどのような指導を行ってきたか。

学校教育課長

教育委員会としては、今後も生徒が自己実現に向け進路選択ができるように中学校と共に進路指導を行っていく。



魅力ある高校として存続を

災害対策

問 地滑り地帯の点検は

答 県と町で合同点検を実施

議員
伊藤 一男

地滑りが心配される銚子の口

問 喜多方市高郷町揚津の県道で5月末から地滑りが発生し、現場の県道の一部が通行止めになっている。

また、地区の住民に避難勧告が発令されるなど大変な事態となっている。本町においても、地滑り地帯もあり非常に心配させられるところである。このことを受けて町として、関係機関と連携す

るなどして地滑り地帯の点検等を実施しているか。
建設水道課長

本町で地滑りが予想される危険箇所は、国土交通省や林野庁、農林水産省所管を合わせて27カ所ある。

地滑り危険箇所の点検については、県単独及び県と町による合同の点検を定期的に実施しているところであり、今後も関係機関との連携を密に、町民の皆さんの安全・安心を確保していく。

交流拡大

問 ベトナムとの今後の交流は

答 町の活性化のために交流を継続

問 3月にベトナムの首都ハノイで開催された

「日越外交関係樹立45周年記念・ハノイ日本文化交流」とは、どのような内容であったか。

町長

オープニング式典にはベトナムや日本の政府関係者も出席され、2日間の来場者数は約10万人と大規模なイベントであった。日本文化を紹介するブースはどれも大盛況であった。

問 本町とベトナムとの今後の経済交流や人的交流等の可能性や見通しについて、どのように考えているか。

町長

これまでの交流を継続・発展させながら、本町が抱えるさまざまな課題の解決にベトナムとの関係を活用できないか調査・検討を進めていく。

人口減少が進む本町の産業振興、活性化に向けて外国人の受け入れの可能性についても調査を進める。



今後のベトナムとの交流に期待する



議員
猪俣常三

教育行政

問 町長の教育方針は

答 子どもの教育が最も重要

問 他県から、教育長を迎えられたが、その理由と町長の教育方針は。

町長

本町が継続、発展するためには、人材育成、子どもたちへの教育が最も重要であり、学力の向上と産官学民の連携した、新しい教育の機会を与えたいと考えている。

このため、昨年12月から教育改革サポート事業を実施し、国が目指す方向や他地域の先事例を調査してきた。

学校、家庭、地域との連携や産官学民との連携による先進的な教育を実践し、教育の質の向上にも取り組み、全国から注目されている埼玉県戸田市とのつながりができた。私も戸田市に伺い、戸田市の教育長から教育について話を伺い、先進的な取り組みを本町に取り入れていきたい。

特に戸田市では、AI（人工知能）の発展が予測される中、児童生徒に今後求められるプログラミング的思考を育むため教育を進めている。

この中心的役割を担ってきたのが江添教育長で、学校経営力にも優れ、学校経営アドバイザーとして校長先生方を指導する立場で活躍されていた。

本町にない教育を取り入れ、外の風、新しい風として教育長をお願いした。

問 教育改革サポート事業の具体的な内容は。

教育長

町の教育改革をサポートする手段として、総務省の地域力アドバイザー事業の地域人材ネットワークに登録されている外部専門家と事業委託契約を締結して進めている。

問 教育改革に取り組まれる具体的な内容と県、会津教育事務所との連携は。

教育長

急速なグローバル化や情報化が進む厳しい社会で、生き抜く力を身につけ、学力や体力はもとより、自制心や「やり抜く力」などの教育が望まれる。

教育委員会では、IRT学力調査の実施と結果の分析活用、ICTを積極的に活用したプログラミング教育の試行と放課後の家庭学習の充実、主体的・対話的で深い学び合いを目指すアクティブ・ラーニングの推進などを中心とした新しい教育の方向性を確立したい。



埼玉県戸田市とのつながりに期待する

県全体と会津地域の教育長会議のほか、耶麻地区市町村教育委員会の連携会議、会津教育事務所長の来町訪問を通じて、積極的に情報交換や共有を図ってきた。

問 介護を担う人材育成を

答 初任者研修を継続



議員
清野佐一

問 町では、介護を担う人材育成のため、平成10年度から訪問介護養成事業を実施してきた。

平成25年度から介護職員初任者研修事業として継続し、平成28年度までに37名が終了して合計433名となっている。

だが、この努力にもかかわらず第6期介護保険事業計画では、職員不足等により、事業の実施に影響が出ている。

4月からスタートした第7期介護保険事業計画の完全実施に向け、人材の確保・増員を図る対策が必要と考えるが、具体的な支援策は。

町長

介護職員については、

全国的にも不足しており、国では「介護職員処遇改善加算」の充実や「再就職支援」等と併せて、職員の負担軽減に取り組むとしている。

町としても、国の支援策がスムーズに受けられるよう、各事業者に情報の提供や指導をしている。また、今後も「介護職員初任者研修」を継続的に開催していく。

農業政策

問 農地の適正管理を

答 制度を活用し維持管理する

問 平成30年度からは転作が廃止され、目安としての作付面積が配分された。5月末現在の作付見込みはどのくらいになっているか。

農林振興課長

平成30年産米については、596ヘクタールの生産面積が目安として配分された。

5月末現在の作付見込みは、623ヘクタールとなっているが、町としては目安達成に向けて、産地交付金を活用し、そばやミネラル野菜など、米以外の作物への転換を推進している。

問 西会津町農業振興地域整備計画の中で、「圃場整備済みの農地につい

ては、今後とも優良農地として明確にし積極的に農業施策の振興を図る」としている。

農林振興課長

現在、自治区等において多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払制度の活用により、将来守っていくべき農地を選定し適正な維持管理に努めている。



適正管理で美しい田園を後世に



議員
多賀 剛

新教育大綱

問 早急に策定すべき

答 まず は 部分変更から

問 現教育大綱は、町総合計画・後期計画に基づき策定されたものであり、平成27年度から平成31年度までの期間となっている。

町長 総合計画においては平成31年度を初年度とする計画策定のための検討作業が進められているが、教育大綱においては策定計画はなされていない。

性を鑑み、総合教育会議において十分協議・調整を図りながら、平成31年度からの教育大綱を定める。

町長 現教育大綱については、計画期間に達成されたものや変更されているものもあるが、来月開催予定の総合教育会議において部分的に変更する。

町長 教育大綱の策定にあたっては、町総合計画の骨子が定まり次第、町が目指す教育に対する方向

問 昨今の教育を取り巻く環境は、変化の激しい時代となっている。変化の時代だからこそ未来を拓くチャンスととらえることもできるし、また、いくら時代や環境が変わ

るうとも変えてはならないもの、守っていかなければならないものもある。本町には他にない歴史や文化が数多くある。地域の特性や環境にあった教育改革の進め方も必要と考える。教育長が目指す本町の児童生徒像、教育に対する理念、所信を伺う。

町には「研幾堂」の歴史や優れた精神文化等は本町の誇れる多くの不易のものと言える。

町長 教育には不易と流行があり、それを理解したうえで教育改革を進めていく。この不易をしつかりと学校教育において育んでいく。また、児童生徒が将来にわたって幸福を感じ、社会で必要となる21世紀型スキル、非認知スキル、汎用的スキルを身につけていく新しい学びの力が重要と考え、教育改革を進めていく。

問 教育長の所信を伺う

答 教育は子どもの幸福にある



所信を述べる江添信城教育長

教育行政

問 寄附金の返礼品は

答 寄附者のニーズに合わせ



議員

長谷川義雄

問 制度拡充の内容は。

町民税務課長

6月11日から、ふるさと納税の大手サイトである「ふるさとチョイス」に内容を公開し、寄附される方が寄附をしやすく、好みの品を選べる形態とした。

問 返礼品の米のブランド化は。

町民税務課長

食味計を導入予定であり、米生産者に幅広く利用していただき、西会津産米への評価を高めるとともに、翌年以降の作付けへ活用し、西会津産米のブランド力の向上を図る。

介護人材確保

問 確保に向けた取り組みは

答 計画的な確保に向け取り組み

問 町内事業所における

介護人材の状況は把握しているのか。事業所への人材確保に対する支援策は。

福祉介護課長

町内の一部の事業所においては、介護人材の募集に苦慮していることから、連絡・連携を密にして人材確保の支援をしている。

今後も「介護職員初任者研修」の修了生に声をかけるなど人材確保の支援を積極的に行う。

問 2025年問題はどのように考えているか。医療と介護をつなぐ訪問看護師の人材確保は。

福祉介護課長

介護サービスの提供体制を維持するため、国の支援制度と併せて町ができる介護人材確保に向けた取り組みを進める。

医療と介護の連携は重要と認識しており、今年度から訪問看護事業所の看護師を1名増員するなど、体制の充実を図っており、計画的な人材確保に努める。



サービス維持のため人材の確保は重要である



議員
三留 満

燃料チップ

問 広域的取り組みの可能性は

答 今後の進捗を注視

問 木材コンビナート構

想の中で、燃料チップ生

産施設を会津地域内に4

カ所程度設け、平成32年

度の完成を目指すとする

が、条件や候補地等につ

いて具体的に示されてい

るのか。

これまで木質バイオマ

ス燃料製造施設は需要面

で課題があり、時期尚早

との答弁があつたが、広

域的取り組みであればこ

の問題は解消されると思

われるが町の今後の対応

は。

農林振興課長

5月17日に開催された

会津地域森林資源活用事

業推進協議会総会におい

て、今後の事業行程が説

明された。

木材コンビナート及び

サテライトについては、

候補地をそれぞれ3カ所

程度に絞り込んだとの報

告があり、平成30年度末

には最終的に決定される

見込みである。

燃料チップ生産施設に

ついては、平成32年度に

チップを「調達」から

「生産」に切り替えるこ

う説明にとどまり、詳

細な計画は明らかにされ

ていない。

本町における木質バイ

オマス燃料製造施設整備

については、時期尚早と

答弁しているが、会津地

域で広域的な取り組みが

見込まれていることから、

今後の進捗状況を十分注

視していく。

問 若者定住住宅のアンケート調査の内容と結果の反映は。

町長

本年に入り「若者向け

住宅ニーズ調査」と「町

内民間アパート実態調

問 アンケート結果の反映は

答 早期に整備を進める

若者定住住宅



若者が定住できる住宅の整備を
写真提供：磐梯町

「査」を実施した。

「若者向け住宅ニーズ調

査」では、従業員が20名

以上の19社に勤める「町

外居住者」「持ち家を持

たない町内居住者」を対

象にアンケートを実施し、

179名から回答を得た。

回答結果として、町が

住宅を整備した場合の入

居希望者は回答者の45

パーセント79名、そのう

ち7割の55名がアパート

への入居を希望している。

住宅の所在地について

は、野沢地区54名、尾野

本地区が15名、他地区の

回答はなかった。

また、町内アパート16

棟の調査を実施したが、

ほぼ空きがなく、町営住

宅もほとんど空きがない

状況である。

調査結果から、賃貸住

宅等への入居希望は相当

数あるが、住宅の供給が

極めて不足していること

が確認された。

このことから、緊急に

集合住宅の整備が必要と

判断し、整備場所や入居

対象者、住宅の規模、整

備方法、財源等について

検討を進めており、早期

に整備していきたい。

自然災害

問 自然災害への対策は

答 危険箇所の周知を図る



議員
薄 幸一

問 隣接する喜多方市高郷町揚津地区で地滑りが発生しているが、本町でも地滑りが予想される地区はあるか。

建設水道課長

地滑り危険箇所として27カ所が指定を受けており、県単独及び県と町による合同の点検を定期的に実施している。

また、ハザードマップを作成し全戸配布しながら、危険地区の周知を図っている。

問 県道新郷・荻野停車場線で、明神橋付近の落石防護ネットを越えて10センチメートル程の石が落下している。

何時石が落下するか分からない状況であるが、県への要望活動の状況は。

建設水道課長

早期に改善を図り、安全・安心な交通を確保する必要があると認識している。

県喜多方建設事務所に對して、地域課題検討会等の機会に課題提起し、

早急に対策を講じるよう強く要望しているが、今後もし引き続き、早期事業化を目指し要望活動を行っていく。

問 自然災害ともいえる今冬の豪雪で傷んだ道路や河川、吹雪で走行困難な場所を確認しているか。

建設水道課長

損傷や支障をきたしている箇所があれば対策を講じ、維持・修繕を行っている。

また、吹雪によりホワイアウト現象を引き起こし、支障をきたしている箇所は、地域住民からの情報により状況確認を行っており、対策についても検討している。

施設の活用

問 旧新郷保育所施設の活用は

答 地域コミュニティ活性化で活用

問 旧新郷保育所が閉鎖して数年が経っているが、施設の活用は。

企画情報課長

旧群岡保育所への統合に伴い平成26年3月には保育所施設としての用途を廃止し、現在、普通財産として維持管理している。冬期間は除雪作業員詰所として、また、集団健診の会場や投票所、老人クラブ活動などで使用されている。

今後ともサロン活動をはじめとした地域コミュニティの活性化など、多様な利活用を図っていく。

問 駐車場も狭く、除雪作業で雪を押す場所がない。縁石を撤去すれば除雪作業もしやすいと考え

るが。

総務課長

縁石の撤去が可能なのか、検討させていただき、可能であれば撤去し、駐車スペースを確保したいと考えている。



有効活用により地域コミュニティの活性化が期待される



議員
秦 貞継

定時定路線バス

問 導入に向けた今後の取り組みは

答 状況を考慮しながら進める

問 定時定路線バスの必要性を町はどのように考えるか。

町民税務課長

町民の方々からの強い要望と、これから迎える超高齢化社会に向けて定時定路線バスの運行は必要である。

問 定時定路線バス導入に向けた現在の進捗状況は。

町民税務課長

現在のデマンドバス利用者の状況を考慮しながら進めている。

下谷・群岡・新郷・奥川の4方面の運行ルートや運行便数について調整を重ねており、通勤・通学・通院など、さまざまな利用に対応した効率的な運行方法を検討する。

今後、関係する自治区長等に検討案を提示し、ご意見を伺うとともに、委託先との調整を経て、定時定路線バスの運行に向けた手続きを進める。

問 自治区長を通じての集約だけでなく「民生委員」の意見や「サロン」等に出向き、意見を聞いてみてはどうか。

町民税務課長

サロンでの意見収集や民生委員に意見を伺うなどしながら調整していきたい。

問 町民バス運行のさらなる向上策の考えは。

町民税務課長

利用者から意見等を伺いながら随時改善を図るなど、さらなる利便性の向上に努めたい。

問 医師確保にむけた現在の取り組み状況は。

町長

全国自治体病院協議会や、町長を先頭に県地域医療支援センターへ訪問して募集活動を行ったほ

問 現在の取り組みの状況は

答 医師採用に至っていない

医師確保



医療の充実のためには医師と看護師の確保は急務である

か、県ドクターバンクへの登録、医師専門誌やインターネット広告への掲載など、さまざまな方法により募集を行ってきたが採用には至っていない。

健康増進課長
往診も含め現在の人員体制で概ね順調に運営できている。専門職については、医師と同様に、今後も計画的に採用していきたい。

問 看護師などの医療に対する人員体制はどうなっているのか。

森林資源活用

問 効率的な森林施策とは

答 森林組合と関係強化を図る



議員

小柴 敬

問 林業専用道の整備と林業の担い手についてどのように考えているか。

町長

杉山地内の林業専用道が完成すれば、伐採・搬出コストが1800万円削減可能である。これまで販売できなかった木材を販売することで、山主へ還元が可能になる。

林業専用道の整備により、針葉樹はもとより、近年高値で取引されている広葉樹を含め、伐採から再造林までの中長期の事業計画が立てられるため、雇用の創出、若者定住の施策と組み合わせることにより、林業に従事する人材の増加に寄与すると期待している。

担い手の育成については森林組合において「緑の雇用制度」を活用し、人材育成に取り組んでいる。間伐から皆伐再造林

へと国が示す森林経営の方針も転換期にあり、森林環境税の創設など森林整備に向けた取り組みも注目され、今後人員不足も懸念される。

町としてもこれまで以上に森林組合との関係強化を図り、会津地区の他町村とも連携しながら、林業における雇用創出と担い手育成に取り組んでいく。

問 木質燃料等の製造施設に対する町の考えは。

農林振興課長

工場建設については、会津地域全体の構想が進んでいるので、進捗状況を注視しながら対応していく。

問 木材の利用と民間事業者の育成に対する町の考えは。

農林振興課長

県によれば個人住宅の新築は減少傾向にあり、木材需要はリフォーム等に移行し、公共施設の活用についても需要の開拓と位置付けしている。

町としても西中や西小こゆりこども園等の公共施設への地元産材の活用を積極的に進めた。今後も引き続き地元産材の活用に取り組むことで、民間事業者の育成にもつながるよう取り組んでいく。

問 ストープ購入補助金増額の考えはないか。

企画情報課長

現在、町・県を合わせると最大15万円の購入補助を受けることが可能。

見直しについては、県内や先進自治体の動向を踏まえ検討していく。



森林資源の有効活用を



議員
青木照夫

まちの活性化

問 まちを活性化するには

答 総合計画の中で検討

問 政府は、「まち・ひと・しごと創生法」をス

タートさせ、人口が首都圏に集中することに歯止めをかける努力をしているが、地方にはその成果が出ていない。当町としての課題の解決には何が

必要か。
20年後には現人口6500人が半分の3500人になると予測されている。町が存続できる分岐点の人口とその対策は。

企画情報課長

分岐点の人口という捉え方はしていないが、20年後の予測人口3440人を、総合戦略に基づき取り組みにより、3800人を確保することを目標としている。

問 町内の空き家や独り暮らし、高齢者世帯がす

でに全世帯の半分以上を占めている現状だ。20年後でなく3年〜5年後に分からない。

企画情報課長

各集落の情報を適切に収集して今後取り組んでいく。

問 「総合計画検討会議」の中に、観光の振興と交流人口の拡大とあるが、その内容は何か。

企画情報課長

町にある歴史文化を大切にし、それらを生かして新たな価値を生み出せるよう、今後の基本計画に取り組む。

問 首都圏では、退職した人が地方に移り住む

ニーズがある。人口増が期待されることから、民間とは別に町の取り組みができないか。

商工観光課長

交流人口の拡大と今後の町の方策で、定住移住者に選ばれる地域になるよう努力する。

問 人口減少の歯止めは、結婚し子どもを産み育て

ることにあるが、後継者事業のその後の実績と今後の対策は。

商工観光課長

昨年度のカップリング率が47パーセントであり、今後、首都圏在住の女性独身者を対象とした「西会津ツアー」等を考えている。



まちの活性化につながる総合計画になることを期待する

問 当町には、企業誘致

に有利な西会津インターがある。周辺地を開発することで人口増になる。思い切った職場を確保すべきだ。

町長

当該地は、農業振興地域であり、労働力確保の課題もあり、西会津インター周辺の開発は考えていない。

問 工業団地が、数十年

間仮眠状態だ。生産性の高い菌床キノコのハウス等で活用できないか。

町長

企業誘致や菌床キノコハウスの拡大を視野に入れているが、当面、現在ある企業を元気になるよう支援する。

町民と議会との懇談会（第10回議会報告会） 開催報告

第10回目となる町民と議会との懇談会（議会報告会）を開催し、「ふるさと納税と町の活性化」について、意見を交換しました。

町議会では、公正で透明な開かれた議会を推進しています。

また、議会活性化の取り組みも進めており、その一つとして議員が各地区に伺い、議会活動の報告と町民の皆さんとの意見交換を行い、今後の議会活動に反映させることを目的に町民と議会との懇談会（議会報告会）を開催しています。

今回の懇談会は、5月14日から21日にかけて町内10カ所で開催し、延べ75人に参加をいただきました。

始めに、議会から3月議会定例会の議案審議の結果など、議会活動について報告し、参加した皆さんの質問にお答えしました。

その後、今回のテーマである、「ふるさと納税と町の活性化について」に参加した皆さんと意見交換をしました。

主な質問・回答

バス交通

問 現在デマンドバスが運行されているが、定時定路線バスとの需給バランスは。次世代の財政負担にならないか。

答 町長の選挙公約でもあり、財政的にも大丈夫である。

問 定時定路線バスの早期導入を要望する。

答 デマンドバスとの併用であり、双方の良い点を活用して、町民の足の確保のため導入する。開始時期は町側から連絡される。

問 乗り合わせや時間に余裕があるようなタイムテーブルを作成してほしい。

問 なぎの平地区は、冬期間雪の吹き溜まりが発生する。早期の防雪柵の設置を要望する。

答 一般質問でも要望している。どの箇所に設置が必要か検討していくとの解答であった。

問 奥川地区の定時定路線バスの運行はどうなるのか。

問 滑沢自治区内の除雪が遅い。11月頃に村外に出るのに2時間待ったこともあった。

答 デマンドバスとの併用で、幹線のみ運行と思われる。地元の意見を集約して対応することが重要である。

答 町側に対応を申し入れる。

問 奥川地区の定時定路線バスの運行はどうなるのか。

問 滑沢自治区内の除雪が遅い。11月頃に村外に出るのに2時間待ったこともあった。

問 カタカナ用語の意味がよくわからない。

雪対策

問 今冬は雪処理に苦しんだ。「豪雪対策本部」ができなくても助成金が出るようだが詳細は。

問 教育長が目指す教育改革とは。

答 今年度から「豪雪対策本部」が設置されなくても、要件に当てはまれば助成金が出るようになった。

答 教育長は今まで戸田市にいたが、戸田市は教育改革に力を入れている。学力的にも優秀な市であり、今後の改革が期待される。

問 樟山バイパスはいつ通行できるのか。

答 今年度から「豪雪対策本部」が設置されなくても、要件に当てはまれば助成金が出るようになった。

答 喜多方建設事務所に要望に行ってきたが、地権者との協議が進んでいない箇所があり、もう少し待ってほしいとの回答があった。

問 芸術村の駐車場の案内がよくわからなかった。

答 今年度から「豪雪対策本部」が設置されなくても、要件に当てはまれば助成金が出るようになった。

問 芸術村の駐車場の案内がよくわからなかった。

答 議会から担当課へ要望する。

問 今年度から「豪雪対策本部」が設置されなくても、要件に当てはまれば助成金が出るようになった。

問 芸術村の駐車場の案内がよくわからなかった。

答 議会から担当課へ要望する。

問 今年度から「豪雪対策本部」が設置されなくても、要件に当てはまれば助成金が出るようになった。

問 芸術村の駐車場の案内がよくわからなかった。

答 議会から担当課へ要望する。



滑沢自治区



宝川自治区

懇談テーマ「ふるさと納税と町の活性化について」

町が見直しを進めている「ふるさと納税」と、それを活用した町の活性化について、懇談会の中で町民の皆さんからさまざまなアイデアをいただきましたので、その内容を紹介します。

①返礼品と同時に町長が会津井でふるさと応援寄附金のお礼をしてはどうか。

②ふるさと納税で企業支援など、町がサポートしていかなければならないと思う。
③ふるさと応援寄附金の返礼品として米以外にも「柿」「手打ちそば」は喜ばれると思う。
また、寄附者に満足していただけるよう、ツアー等で西会津町に来てもらうことも考えてはどうか。

④ふるさと応援寄附金のカタログもインパクトが必要では。文字も大きくし、わかりやすいカタログを作してほしい。
⑤米だけでなく、ふるさと応援寄附金の返礼品のメインとなるものを考えたい。

⑥ふるさと応援寄附金の請負業者の成果チェックをしっかりして欲しい。

⑦ふるさと応援寄附金を利用する方々へのニーズ調査も必要ではないか。

⑧町の方策を打ち出す際、費用対効果の説明があれば、町民は理解しやすいのではないか。

⑨食味計を利用してハイレベルに特化したやり方で買っていただけなく、に農協・役場と協力して進めてほしい。

⑩町としても独自のものを取り扱っていかねれば、他町村との競争に勝てない。まず、米が基本である。それに加えてミネラル野菜であったり、キノコだったり。玄米や精米を売るだけでなく、バック詰めなど、加工して販売してもいいと思う。

この他にも、「返礼品が米になった場合の対応について」「町の進める政策の方向性について」の質問もありました。また、「ふるさと応援寄附金の返礼品の対応に『地域おこし協力隊』の隊員に協力してもらってはどうか」といった提案もいただきました。

今後、ふるさと応援寄附金が充実していくよう、議会も一般質問などで提案やチェックを行っていきます。

総務省・ふるさと納税ポータルサイト（総務省HPより）

この人に インタビュー

このコーナーでは、町内各方面で活躍されている方々を紹介いたします。

今回は西会津高校生徒会長・放送部で活躍されている平野絵梨さんです。



プロフィール

住所：西林（尾野本）
学年：3年
家族構成：5人家族
得意科目：英語

—西会津高校の良さは、先生との距離が近いので、自分の変化に早く気づいてくれて、適切なアドバイスをしてくれるところ—

—大変と感じたことは、

人数が少ないので、生徒会活動や行事を一人で何役もこなさなければならぬことです。

—生徒会長として努力してきたことは、

一人一人が生徒会行事を楽しめるよう考えて取り組みました。

—全国高校放送コンテストで、全国大会に出場しますが抱負は、

去年の冬から取材や編集をしてきたので、県大会審査で全国大会出場が決まったときはとてもうれしかった。

全国大会では、西会津を広く全国に知っていただけ頑張ってきたので、来年の冬から取材や編集をしてきたので、県大会審査で全国大会出場が決まったときはとてもうれしかった。

—将来の目標は、

進学して経済学を学び、経済を通して海外との違いや、東京一極集中の問題などの知識を深めて、

議会の動き

福島県議会議長

自治功労者表彰を受賞

武藤道廣議長が、平成30年6月4日、県町村議長会定期総会において、自治功労者表彰を受賞しました。

このたびの受賞は、町議会議長として6年以上在籍し、その功績が認められたものです。

6月8日の町議会議会開会日に議場でその伝達が行われました。



政策提言調査 特別委員会



新潟県立大学
田口一博 准教授

政策提言のできる議会へ

5月15日に阿賀町議会研修会が開催され、本町の議会議員も参加させていただきました。

講師の新潟県立大学の田口一博准教授は、議会改革や議会活性化等に積極的に取り組んでおられることから、本町議会としても政策提言に関してご協力をお願いしたところ、ご快諾いただきました。

今後は、田口准教授から指導・助言をいただきながら、政策提言のできる議会を目指して、研修会や勉強会などを継続的に進めていきます。

編集後記

7月になってからもまとまった雨はあまりなく、空梅雨気味な当地に対して、西日本は数十年に一度の豪雨に見舞われています。

想像を絶する惨状を見ると、被災された方々の心の中はいかばかりかと心よりお見舞い申し上げます。

当町は毎年のように雪に苦しんでいます。雪は予測可能であり対処次第で被害を防ぐことができます。

比較的災害の少ない当町では、雪さえ克服できればもっと住みやすい町になれると感じるこの頃です。

三留 満

編集委員

委員長 三留 満
副委員長 秦 貞継
委員 三留 正義
委員 薄 幸一
委員 青木 照夫

にしあいづ議会だより

No. 142

発行 福島県西会津町議会
編集 議会広報特別委員会

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢
字下小屋上乙3308 0241(45)4537
e-mail gikai@town.nishaizu.fukushima.jp